

パブリックコメントの実施結果概要

1 実施期間

令和6年8月31日(土)から令和6年9月30日(月)まで

2 パブリックコメント件数

計57件(提出者16人)

3 意見別件数

分類		意見数
基本構想		4
基本計画	重点テーマ	7
	施策体系	38
その他		8
計		57

柏市第六次総合計画(案)に対する パブリックコメント及び回答

柏 市

目 次

1 基本構想について.....	3
2 基本計画(重点テーマ)について.....	5
3 基本計画(施策体系)について.....	8
4 その他.....	16

1 基本構想について

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
1	基本構想	8	第六次総合計画(案)を拝見しました。柏市は他市に比べ、総じて豊かで恵まれてもいる、と考えますが、今後の市政のかじ取り如何によっては停滞や相対的沈下も起こり得ると考えます。(まず、p3の目次と、PDFの実際のページが合致していません。)第一章の「はじめに」で記載されていることは概ね分かりやすく、現状と今後の課題とその背景が浮き彫りにされています。第2章の「基本構想」2(2)「計画の構成」(p.10)の記述は不十分ではないかと感じました。3角形の構成図が添えられていますが、その構成図に現れる「部門計画」の語の説明がそもそもありません。更に言えば、p12に「実行計画」という言葉が唐突に出てきますが、これも説明がありません。これは、基本構想と基本計画をどのように具体化し、実現するかの理解に不可欠である筈ですが、それが現在の案の文章で伝わるとは思えず、従って、どのように今後の市政を行おうとしているかの全体像の提示としての「計画の構成」の理解として中途半端になり、市民の理解を妨げます。更に言えば、p16に説明される「施策体系」という語と、上記の「基本構想」「基本計画」「部門計画」「実行計画」などの語との関係も十分には理解できにくいと思います。3角形の構成図とその説明を全体として分かりやすいように見直されてはいかがでしょうか。以上が、総合計画案の記述自体についてのコメントになります。	ご意見を踏まえ、語句の説明を追加するなど、より分かりやすい表現となるよう留意します。
2	基本構想	10	柏市第六次総合計画(案)を拝見しました。以下、意見を述べさせていただきます。ご査収ください。 2. 将来の姿 本文「そして、社会共通の課題の解決を目指すことで、柏が、日本を、世界をリードしていくまちでありたい。」こちらの意図がわかりかねます。P14に記載の「アカデミックや研究機関と連携しつつ…新たなイノベーションを生み出す挑戦」といった、北部地域の特色や可能性を言っているのでしょうか。どちらにしろ、わかりにくいと思われるので、この2行は削除しても良いのではないかと思います。	将来の姿に掲げる内容を説明するものとして、柏市が他自治体に先駆け、日本や世界をけん引していく姿勢を示すものであり、原案の内容のままとします。
3	基本構想	11	(2)もっと居心地の良いまちへ 下から2行目「健やかに育ち、安心して過ごし、年齢を積み重ねていく…」とありますが、積み重ねるには経験や成長していくようなイメージもあるように思うので、居心地の良い居場所としては「年齢を重ねていく」という表現が相応しいのではないかと感じました。	ご意見を踏まえ、「年齢を重ねていく」に変更します。
4	基本構想	11	2. 計画の位置づけと第2章基本構想 -.2基本構想3目標は賛同。「地域の個性が輝く」は人が見えず「地域と人の個性が輝くまち」では。	「地域の個性」には、各地域の自然環境や文化歴史などに携わる人々も含めて表現しているため、原案の内容のままとします。

2 基本計画(重点テーマ)について

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
5	重点テーマ	13	・P13 重点テーマ1の「全世代」の文言について、なぜ「世代」という言葉が選ばれたのでしょうか。以下の3つの項目について、「誰もが学び続けられる・」「誰もが健康になれる」「誰もが自分の居場所を持てる」と、あるにもかかわらず、重点テーマでは、「全世代」という、「世代」という言葉におきかえられています。「全ての市民」「市民全て」に向けた学び…としていただけませんか。」「世代」という言葉によって、矮小化される恐れがあります。	学びは就学年齢に向けて、健康増進は高齢者に向けてと、特定の年代に関係があると考えられがちなこれらの内容について、どの世代においても重要なものであるということを意図していることから、原案のままとします。 誰も取り残さないという考えであることは、重点テーマの説明文にも加えてまいります。
6	重点テーマ	13	以下は、個人的な希望になります。しかし、多くの市民の希望でもあるはず、と思っています。 基本構想に記載されている文言自体には共感するところも多いです。「将来の姿」として、「多様な価値や人々がつながり、新たな価値の創造に挑戦」と謳っているのはわが意を得たり、とも思います。そこから導かれる「基本的な目標」も概ね共感します。そして、特に重点的に取り組むテーマが掲げられています。 その重点テーマ1として「全世代に向けた学び・健康・社会参加」が言われています。それを実現するためにも、端的に言って、いま新たな図書館複合施設が必要ではないでしょうか。単体の図書館というより、学びの場であり、居場所であり、社会参加の場でもあるような、図書館機能を中心にした文化複合施設です。「国際化の進展や、急速に変化する社会情勢において、自ら考えて行動するための自律的な学びを支え、生涯にわたり学びを得ることができる場があることで、誰もが学びの喜びを実感できるとともに、地域の課題解決にも資するような、いかなる環境においても活躍できる人材が育つまちになります。」(p13)は、正に待ち望まれているもの(場所)でしょうし、その具体的な解決策として現在の老朽化した図書館ではその任は重く、新たな文化的複合施設でそれを実現するタイミングは今しかないのではないのでしょうか。実は近年、首都圏のみならず、地方の課題解決、地域再生のために、図書館複合施設が新たに設けられる事例は増えてきています。現在の柏市の図書館が「図書館の在り方」の策定などで少なくともソフトの部分での進捗があることは評価されますし、大事な点ですが、併せてハードのリニューアルは財政的な課題はあるにしても、正に総合計画を具体化するために必要ではないのでしょうか。是非総合計画に盛り込んで頂きたい、私見を述べました。よろしく願いいたします。	図書館のあり方については検討を進めているところではありますが、総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしております。
7	重点テーマ	14	エリアごとの特徴を生かした地域経済、産業の振興・・・ 「新たな産業や文化等と呼び込む」という文の前に、「今まで続いてきた文化や、自然環境などを大切にしつつ」を入れて頂きたいです。 柏市のブランドスローガン「つづくをつなぐ」にあるように続いてきたものには大きな価値があると思います。	基本的な目標において、まちの発展の中で築かれてきた文化や歴史を引き継いでいくことを記載しており、重点テーマの表現としては原案のままとします。
8	重点テーマ	14	重点テーマ2にあるように「社会課題の解決に向けた新たなイノベーションを生み出す挑戦を支え、育てるまち」を目指す上では、やはり異なる分野間での連携やコラボレーションが必要ではないでしょうか？ 柏には、柏の葉の先進技術や手賀沼の農業、柏セントラルの商いがあります。こうした土台を活かし、新たな価値をつくっていくことができますし、分野間が連携することで、柏を支える人材が育っていく、と考えています。 今回の計画案では、各施策が1つの分野の視点のみで語られていると感じました。例えば重点テーマ2「健康になれるきっかけにあふれたまち」では、医療だけでなく、スポーツの視点、自然環境の視点もあるべきです。各施策をより広い視点で捉えていただく、あるいは分野間の連携を促進するための仕組みや仕掛けを提示していただけると、我々商工業者も動きやすくなります。	総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしておりますが、本計画の中で設定した重点テーマにおいては、部局横断の視点を意識しながら、具体の実行計画を策定し、取り組んでまいります。
9	重点テーマ	14	重点テーマ2にある「人々を惹きつけるコアとなるまち」を目指す上では、やはり柏セントラルが重要だと考えています。柏駅前の再開発(旧そごう跡地)に関して、具体的な言及は難しいとは思いますが、それによって何をを目指すのか、どんな柏駅前を描くのかは、総合計画でしっかりと示しておく必要があるのではないのでしょうか？ 柏セントラルのあり方で「人の流れ」は大きく変わります。外からも人を呼び込める魅力があれば、我々商工業者もチャレンジすることができますし、さらにその魅力を高めていくことができます。柏市の核である柏セントラルの発展は、行政だけ、商工業者だけ、では実現しないものです。両者が連携して取り組んでいくためにも、大きな方向性を提示していただきたいと考えています。	柏セントラルが市の中心であるということはそのとおりですが、総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしております。 どのようなまちを描いていくのかは、市だけではなく、商工業者をはじめ、市に関わる人々とともに進めていきたいと考えております。
10	重点テーマ	14	今回の計画案でも「貴重な自然資源である手賀沼」や「様々な魅力に惹かれ、人々が交流してきた柏駅前」と、各エリアの価値や強みが記載されています。一方で、市民として、そうした魅力が繋がっていない、共有されていない、と感じてしまいます。 市内各所に魅力的な場所があるので、その魅力をしっかりと発信していく、そして実際に訪れやすくなるように、アクセスを改善していくことが重要だと考えます。「持続的な地域経済循環」においても、エリア間のつながりは不可欠であり、総合計画において言及して欲しいポイントです。提言書に示した新交通システムはすぐには実現できないものですが、そうした「新たな交通体系の検討」の視点を盛り込んでいかなければ、柏市の交通環境が今後改善されることはないと思います。本市の大きな課題として捉えていただきたいと考えています。	総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしておりますが、今後の参考にさせていただきます。 今後の取り組みの中で、交通アクセスに限らず、情報へのアクセスのしやすさ、利用しやすさについても考えてまいります。

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
11	重点テーマ	15	重点テーマ3 未来に備える防災・減災と気候変動対策 の「防災・減災」に関して以下に意見を述べさせていただきます。 ①今後の公的施設建設・改築については耐震性に止まらず「フェーズ・フリー」の考え方にに基づき、平常時の運営のみならず発災時の運営形態も必須の考慮条件として設計を行う。具体的には、避難所として使用される場合の十分な居住・物資保管スペースの確保、避難者の「関連死」を防止」する為に居住・生活に必要な要素を充分考慮した各種設備・環境の整備を義務付ける。 ②発災に備えた市民側の3～7日分の備蓄は今後も推進する必要があるが、地震災害による避難生活はこれまでの例を挙げるまでもなく数か月以上の長期に亘ることを考え、自助努力推進のみならず公助の側面の更なる強化が必要。具体的には、柏市の3日間の防災備蓄在庫を供給し尽くした後、避難者数(需要)の変化と民間協定先・県・国からの物資供給納期の変化および柏市内の販売店の休業率変化から、物資の「次の在庫水準」をどの位に設定し運用すれば避難者が必要とする物資を遅滞(欠品)なく供給できるかという具体的な運営方法・手順を設計・文書化(マニュアル化)・関係者への周知を行ない、例えば明日柏市直下地震が発生しても、柏市が平常時の業務と同じような迅速さ・円滑さで物資供給活動を開始できるようにしておくことが必要。また具体的な物資供給方法についての市民からの問合せに対して公開できる「発災時物資供給実施計画書」のような文書(例. 柏市地域防災計画書)の整備も行政の透明性確保および発災時の市民の信頼性確保の為に必要と考えられる。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。

3 基本計画(施策体系)について

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
12	施策体系図	17	・P17 施策 地域福祉 ノーマライゼーション社会の実現 について、ノーマライゼーションかしわプランの基本方針として、1 共生社会の実現に向けた協働の促進 2 健やかに安心して暮らせる地域づくりの推進と、あります。共生社会の実現と地域づくりの両方が大切と思いますが、地域福祉の施策にあることによって、大きな柱が隠れる懸念があります。共生社会があつてこそその地域福祉です。施策の中の「共生社会」の項目でなく、「地域福祉」項目になった理由について、お示ください。 また、現在、障害者の合理的配慮、障害者雇用など、地域福祉だけでは進まない国の方針がありますので、その位置づけについて、項目として、共生社会の実現を、P36、4行目の「地域共生社会」や、P37の7行目の「地域づくり」というように、「地域」に狭めないよう、大目的の「共生社会」を、掲げてくださるようお願いします。	ご意見のとおり、地域共生社会の実現に向けて地域づくりが重要であると認識していますが、市の全体計画である総合計画においては、どのような方針で取り組んでいくのかを施策ごとにまとめていくことから、「地域福祉」としてまとめており、「共生社会」の施策の中では男女共同参画や多文化共生、ダイバーシティの内容についてまとめることとしています。
13	子育て・子育て	20	○20頁「子育て」という用語は馴染みのない用語と感ずるため、注釈が必要と考えます。	子育てとは、子どもを主体として自ら育つことを応援する視点であり、「目指す状態」に具体的に表現しています。
14	子育て・子育て	20	○施策の方向性-1 切れ目のない支援や相談体制、孤立した子育ての支援には、専門性も重要かと思いますが、当事者と専門家以外の地域の人材育成も必要と考えます。	総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしておりますが、今後の参考にさせていただきます。
15	子育て・子育て	20	【施策 子育て・子育て】について 「施策の現状と課題—1」の3点と、「施策の現状と課題—4」の2点が同じですが、「1」の「児童虐待の相談対応件数…」を「4」に移してはいかが？ また、「施策の方向性—4」に次のような一文を入れてはいかが。「児童虐待は子どもの権利侵害であることから、そのような状態を長引かせることのないよう、子どもの虐待や不適切な養育を早期に発見し、必要な場合は速やかに保護できるよう、関係機関との連携を強化します。」 さらに施設や保護所、里親家庭等で過ごす子もいることから、次のような一文を入れてはいかが。「子どもが様々な家庭や家庭以外の場で生活するという多様性を受け入れる地域社会づくりを進めます。」 また、「施策の方向性—4」の「様々な養育環境にある…」を「施策の方向性—2」の最後に移してはいかが。理由は、子どもの「自分らしく過ごせる居場所づくり」、「社会的な活動に参画できる環境整備」、「自発的な活動を支援する地域づくり」等の事業が一体として考えられるのではないかとと思うことと、居場所は子どもたちが生き生きとできるような内容が必要と思うからです。	施策の方向性—1については、「複雑・多様化する子どもや家庭等の課題に対し、子どもの最善の利益を優先して専門的かつ丁寧な支援や対応を行うため、子ども・子育て家庭に関わる専門人材の確保・育成による、相談・支援体制の強化を図り、児童虐待の予防・対応にも積極的に取り組みます。」に変更し、児童虐待の予防・対応における市の姿勢を示させていただきました。 施策の現状と課題—4については、「●子育て支援に関する情報が十分に行き渡っていないため、必要な支援につながっていない子ども、子育て家庭もあります。また、子育て支援団体の育成や、地域における連携の支援が重要です。●様々な困難を抱えた子どもや若者が社会で自立していくためには、地域や関係者・関係機関の理解と協力が不可欠であり、地域社会におけるネットワークなどの資源を活用したサポートが必要となります。」に変更し、施策の方向性—4と整合を図りました。その他、いただいたご意見につきましては、部門計画等の策定や関連事業を進める際にはいただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
16	子育て・子育て	20	施策「子育て・子育て」について、「児童虐待」についての明記がほしいように思います。柏市は、独自にこれから児童相談所をつくり、虐待や障害・非行などを含めた子どもたちのケア、家庭介入などに積極的に行うかと思っています。そのなかで「児童虐待」という文言が入らないのはすこし不思議なように思います（「ヤングケアラー」という文言は入りつつも、その概念と重なる部分もある「児童虐待」に触れないのは不自然な気がします）。もちろん家庭との良好な関係を大事にしたいがゆえに、「児童虐待」という家庭への介入がよくイメージされる懸念から外しているように思いますが、やはり柏市としての大事な政策かと思っていますので、「児童虐待の予防・対応」などは明記した方がいいように思います。以上	「複雑・多様化する子どもや家庭等の課題に対し、子どもの最善の利益を優先して専門的かつ丁寧な支援や対応を行うため、子ども・子育て家庭に関わる専門人材の確保・育成による相談・支援体制の強化を図り、児童虐待の予防・対応にも積極的に取り組みます。」に変更し、児童虐待の予防・対応における市の姿勢を示させていただきました。
17	子育て・子育て	21	○「施策：子育て・子育て」に関して「施策の方向性—2 子どもの成長に応じた教育・保育と居場所の充実を図る」にある、乳幼児期の子どもが健やかに成長・発達でき、中高生世代の若者が、安全に安心して、自分らしく過ごせる居場所の一つとして、柏駅前複合文化施設を想定します。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。また、複数の部門にまたがる課題については、連携して取り組んでまいります。
18	子育て・子育て	21	・P21 8行目 施策の現状と課題の中で、3つ目の項目ですが、その項目だけが、「ニーズも多様化しています。」と、現状についてのみ、記されていますが、なぜでしょうか。その他の4項目については、充実や、提供など必要であるという前向きな書き方になっています。この3つ目の項目についても、充実や提供などを明言してくださるようお願いします。	ご意見を踏まえ、「～多様な保育ニーズに応えていく必要があります。」に変更します。
19	子育て・子育て	22	・P22 5行目 とても小さなことですが、「相談・支援」の言葉を、「相談や支援」にしたいだけですか。「相談支援」と読まれてしまうと、相談の支援という障害福祉の専門用語に読まれやすい心配があります。「相談及び支援」の意味で書かれていると思いますので、「相談と支援」と、誤解のないよう分かり易くしていただければと思います。	ご意見を踏まえ、誤解のないよう「相談と支援」という表現に変更します。
20	子育て・子育て	22	・P22、15行目「年齢や能力等に応じた適切な支援」についてですが、「等」となっていますが、年齢や能力は、数限りなくある中の一部にすぎません。その二つが強調されないように「個別の状況に応じた」など「個別」に応じることの文言に置き換えていただきますよう、お願いします。	ご意見を踏まえ、個別に対応することがわかるような表現に変更します。

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
21	子育て・子育て	22	○施策の方向性-4「こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す」(こども家庭庁「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100 か月の育ちビジョン)」より)ため、直接子育てや子育て支援に関わらない全ての地域の人においても、こども・子育てについて知る機会はとても重要かと思います。「子ども・子育てに関する情報が、子育て家庭や子どもに関わる多くの市民に」とありますが、「子育て家庭や子どもに関わる多くの市民、並びに全ての市民や事業所等に」伝わるべきと考えます。	総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしておりますが、今後の参考にさせていただきます。
22	学校教育	24	○24頁は市内全域の学校で副担任制を導入できるような書きぶりとなっておりますが、現状の教員配置基準では実現は極めて難しいです。	ご意見を踏まえ、該当箇所の表現を削除します。
23	学校教育	24	○つなぐ教育・小中一貫教育の大切な部分の一つに小中の教員の協働による義務教育の質の向上にあります。円滑な接続や連続性のあるカリキュラムを実現するために、小学校教員のきめ細やかな指導と中学校教員の専門性の高い指導を融合させていくことを目指してはどうかと考えます。また、施設分離型での取組に多くの課題があるため、これらの研究実績を蓄積していく必要性を感じます。	関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
24	学校教育	25	○施策の方向性-1「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える～幼児期と学童期以降の接続」(こども家庭庁「はじめの100ヶ月の育ちビジョン」とあるように、子どもををまんやかに考えた切れ目のない支援のために、小1プロブレムや不登校児の増加などの課題がある柏市においても、幼保学(こどもルームも含む)の連携は喫緊の課題ではないかと考えます。25ページ上から4行目の文章は、「幼児期の学び方を小学校低学年にも応用し、保育所、幼稚園、こども園等と連携することで小学校との滑らかな接続を目指します」ではどうかと思いました。	ご意見を踏まえ、表現を変更します。
25	学校教育	26	【2つ目】学校教育において「居場所づくり」の重要性について触れている点について評価できるが、ここでも地域コミュニティを取り入れた取り組みをお願いしたい。 ※互助・共助が自然発生的に生まれる環境をつくる必要があるかと思ひます。また、地域コミュニティは柏市内に所属する団体に限ることにしていただきたいと思ひます。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
26	学校教育	26	学びのところで、先生が足りないのはもう前からわかっているところなのに今更そこをどうこう言っても足りないものは足りないのだから外部から入れることも考えたほうがよい。神奈川県でも特別支援学校に自立活動教諭として専門家が入って対応するなどしているのでその方向も視野にいれてもらいたい。部活活動も含め外部へ委託すれば先生達の仕事も減るのではないと思う。またテストの採点特に小学生のものなどシルバー派遣でも良いかと思う。言葉の教室もST(言語聴覚士)のみでやるくらいにもらいたい。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
27	教育環境	31	子育て支援 柏市でも給食の無料化を是非進めて頂きたいと思ひます。 所得の格差が広がる現在、一日に一食でも健康に配慮した食事が食べられることは、子供だけでなく親にとっても有難い事だと思ひます。将来の柏市民を健康に育てるために是非お願ひします。	現在、市では生活に困窮されている世帯やそれに準ずる世帯、お子さんが3人以上いる世帯を対象に学校給食費を無償化しています。 学校給食費の完全無償化については、恒常的に多額の費用が必要になることから、財源の確保が大きな課題であり、その実現には国や県の財政支援が欠かせません。現時点では、国等による財政支援の見通しが立っていないことから、引き続き、中核市市長会や県市長会等を通じて支援を求めてまいります。
28	健康づくり	32	～(人と人を)つづくをつなぐ～街のために。 1.健康＝身体と心の健康・本計画案には障害者などの要配慮者が見当たらない 現状:高齢化＝障害者の増加・現代の社会状況からみて生産年齢の方の障害者化も増加しています。 解決策:地域みんなで支える環境が整えば、介護扶助などを使わなくても健康を予防・保つことは可能だと考えます。 課題:(市役所内各課が協働・連携し)子どもから高齢者まで、障害があってもなくてもみんなで支え合える街を目指すべきと考えます。 メリット:災害があっても地域みんなで協力しあえる体制を整えることができます。	「誰もが健康に暮らせる環境」には、年代や障害の有無にかかわらず、こころも身体も健やかでいられるという意味を包含しております。
29	健康づくり	32	健康づくりは共働き当たり前の時代なので例えばがん検診も夜間とかあればよいのにと思う。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
30	健康づくり	33	・P33 上から6行目「すべての世代」、下から3行目「多世代の社会参加」について、「すべての世代」や「全世代」と、P32の3行目や、施策の方向性1の「誰もが」は、同じでしょうか。障害者などのマイノリティも含まれるとは想像できにくいです。どうか、「全世代」に置き換えずに「誰もが」とイコールの、しっかりと同じ意味に伝えられる文言に置き換えてくださるようお願いいたします。	「すべての世代」としたのは、年代にかかわらず、こころも身体も健やかでいられるように意図しており、障害の有無によってわけるという意図ではございません。
31	健康づくり	32、34	3. 基本計画 施策体系 施策 -1健康、医療・介護 「すべての子どもが個人として尊重され、将来にわたって自分らしく」これは子ども施策の冒頭ですが若者や高齢者・障害者も同じです、冒頭を整合し「すべての人が――」としたほうが良いと考えます。 「認知症基本法」はこの考えで制定されています。	現在の表現でもすべての人を指していることから、原案のままとします。

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
32	医療・介護	35	3. 基本計画 施策体系 施策 -2. 介護人材・地域福祉人材の確保 「事業者に働きかける」(35P)では具体施策は見え、識者(結城淑徳大教授)の言う「地域包括システムはファンタジー」「2024改定は国の政策ミス」を柏市においても追認しリードする施策は見えません。 柏市がリードする市独自処遇改善＝柏市独自ケアマネ手当の他職種への拡大、ピアサポートの推進、無料職業紹介の柏市開設等を講ずるべきと考えます。	今後の参考にさせていただきます。
33	地域福祉	36	3. 基本計画 施策体系 施策 -3地域福祉 ・人材の確保と共に、ひきこもり、8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー、ビジネスケアラー、介護離職という社会課題の解決に向き合う施策の具体化を求めます。 ・「障害者手帳の取得に至らない人の支援」、上記を含め今日的な社会課題であり極めて重要です。現状は調査がなく、ニーズ→施策の流れが見えません。船橋市や埼玉県各市、関東各市では、ケアラー支援の事業化を行っています。本計画において施策化を求めます。 ※文科省2022年12月一小中生通常学級の発達障害児8.8%。不登校2022年29.9万人、ひきこもり全国146万人、介護離職者2022年10.6万人等 ・「ノーマライゼーション社会の実現」1980年以来40年以上掲げてきた目標です。事業化を求めます。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
34	地域福祉	36	特に地域福祉。学校教育の中に支援学校という単語はあるのに支援級について全く出てきていないので加えてもいいのではないかと思う。	地域福祉では、障害児を含め障害のある人を対象とした施策の方向性を示しています。特別支援教育につきましては、P25の学校教育に現状を記載した上で、施策の方向性として、障害の有無にかかわらず、ともに学ぶ機会の拡充等を示しています。
35	地域福祉	36	～(人と人をつづくをつなぐ～街のために。。 3.障害者などの就労について 現状:様々な障害者就労事業所があるにも関わらず、工賃の向上が叶っていません。柏市では障害者に対する偏見がまだまだあり、受け入れ体制が整っておらず一般就労も難しい状況であります。結果、雇用代行ビジネスのように社会的に有効な仕事をしなくとも賃金がもらえる所へ行くしかない状況です。また更生者の就労も同じです。 課題:就労事業所の工賃向上を市と協働連携して目指すことです。偏見をなくしていくことです。 解決策:就労事業所どうしの協力連携できる場を市が主催していただきます。実施は市民団体や就労事業所で良いと思います。 メリット:他県他市から柏市に就労に来ている方も柏市に住処を得て、税収の増加になります。経済流通も活発になると見込まれます。 全体を通して... *各課の縦割りの様子が伺える。また、市民の行政への関心がとても薄いように感じます。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
36	共生社会	40	〔施策 共生社会〕について「施策の現状と課題―1」で「女性の社会参画は進んでいるものの・・・」とありながら、「施策の方向性―1」の表現では弱いように思われます。人権や活動が性別によって損なわれたり不利益を被ることがないようにすることをもっと強調すべきではないかと考えます。そのため、「施策の方向性―1」に次のような一文を入れてはいかが。「ジェンダー平等教育、包括的性教育等を通して、自他を尊重し合う地域文化の醸成を図ります。」	ご意見にあります、人権や活動が性別によって損なわれたり不利益をこうむることがないようにする点につきましては、現状のとおり、施策の方向性―1の冒頭3行にて記載しています。 ジェンダー平等教育や包括的性教育等の具体的な提案については、市で実施している内容もありますが、部門計画において参考にさせていただきます。
37	生涯学習・文化	42	高齢者の生涯学習の一環として、以下のような企画※をお願いします。 ※取手市のパンフレットを同封します。(ご参考に) *別ファイルに添付あり (目的)知的好奇心を高め、フレイル予防にもつながる。 (方法)月1度位のペースで外部講師を呼び、各種興味のある方面の講座を開催 ・無料 ・大学講師に限らず、気象予報士も良いし、各種ボランティアのリーダーも可 よろしくご検討下さい。	今後の参考にさせていただきます。

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
38	生涯学習・文化	42	○「施策：生涯学習・文化」に関して「施策の現状と課題 ー1」において現状の図書館本館は老朽化が進み、拡張困難であり、市民にとって身近である図書館を入り口とした誰もが学べる環境づくりに寄与することに限界があることに言及します。また、市教育委員会は 2019年2月「柏市図書館のあり方」を策定し、基本理念・基本方針を提示したことを紹介します。 そのうえで、「施策の方向性ー1 誰もが学べる環境づくりを推進する」において、「図書館のあり方」をふまえ、本館機能について柏駅前のまちづくりとの関係において、新たな図書館本館の機能について検討を開始することとします。 さらに「施策の方向性ー2 地域を学び、参加する仕組みづくりを推進する」において、地域課題の解決やコミュニティの活性化、学びの循環を生むための場として地域の文化資源を集積・公開するミュージアム機能を有した拠点整備が有効であることに言及します。 また、「施策の方向性ー3 文化・芸術の振興を図る」で、自らが住むまちに愛着が持てる環境を整備する有益な手段として、ミュージアム機能を有する複合文化施設の存在意義を示します。	図書館のあり方については検討を進めているところではありますが、総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしております。
39	生涯学習・文化	42	1 はじめに 第六次総合計画(案)のうち、特にP17の施策「生涯学習・文化」の「3文化・芸術の振興を図る」、P43「0施策の現状と課題ー3」 「○施策の方向性ー3文化・芸術の振興を図る」について、市民活動グループ「柏の文化を育てる会」で意見交換されている内容を基に、私見を述べさせていただきます。 2「柏の文化を育てる会」の活動 「柏の文化を育てる会」のメンバーは、パレット柏の協力をいただいて、柏市民ギャラリーを会場として、柏市ゆかりの一流作家を選定して下記の展覧会を開催し、柏市民にレベルの高い造形美術を紹介してきました。 ・「棟方志功と地井紅雲ー板画の世界」展2019（令和元）年4月開催 ・「街が育てたえかさー長縄えい子の画業」展2020（令和2）年8月開催 ・「大野隆司のビタミン絵〜」展2021（令和3）年9月開催 ・「羽二生隆宏作陶展ー陶芸歴60余年の極みー」2022（令和4）年10月開催 ・「遠藤裕金工展シュルレアリスムの世界」2023（令和5）年10月開催 その中で柏市に本格的な美術館がないことを残念に思い、「柏に美術館を創ろう」という意見交換を「柏の文化を育てる会」の仲間と賛同者が中核となって進めています。柏の文化を育てる会の仲間と美術館創りへの賛同者の主なメンバーを下記に示します。 三坂俊明(柏の文化を育てる会代表)、竹島いわお(たけしま出版)、吉田義雄(いしど画材)、大野隆司(版画)、石井礼子(元小学校長)、遠藤裕(彫金) 羽二生隆宏(陶芸)、黒沢颯子、三谷早季子(大洞院)、藤澤孔裕、松谷登(絵画)、堀良慶(わたくし美術館)、小林正孝、鈴木裕子(弓乃設計)、岩野節子(朝日れすか)ほか 3 柏市における文化・造形美術分野の我々の現状認識 柏市市民に身近な造形美術分野の施設には、柏駅南口近くの柏市民ギャラリーと柏の葉の県民ギャラリーがあり、市民の美術発表の場として活発・有効に利用されています。また、「アートラインかしわ」は毎年秋に開催するアートプログラムとして多くの若手造形美術制作者が幅広く参加して発展、自ら継続して開催できる力を持つに至りました。 柏市民を対象に令和元年に実施した「教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート」調査結果では、柏市の芸術文化について、問29で音楽活動が活発との回答が6割を超える結果と聞いています。しかし、美術系活動については活発との回答が5%にも満たない結果となっています。その反面、問30-2で美術系活動を鑑賞したいという回答が40%近くとなっています。この差は造形美術分野の市民のニーズとこれまでの施策との間に差異が発生し始めたものと思われます。 令和2年度柏市まちづくり推進のための調査・結果報告書ー概要版ーのP12の「さらに魅力的になるために必要と思う施設は何か」との問いに、回答者の半数近くが柏駅周辺と柏の葉駅周辺に共通して「文化施設」が必要と答えています。この文化施設は、レベルの高い作品群を鑑賞できる美術館を意味しているのであろうと推察しています。 4 柏市第六次総合計画への期待 4.1 造形美術分野への市民強い関心 第六次総合計画に於いては、文化・芸術の振興を図るため、中核市である柏市が周辺地域を巻き込んで文化・造形美術分野で潜在する市民のニーズを汲み取り、次のステップに進んで磨きをかけて、活力ある・新たな価値が生まれる街、潤いと賑わいのある街に成長する方針を示されることを期待しています。	いただいたご意見を踏まえ、文章の表現方法において、今後の参考にさせていただきます。

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
			アンケート調査結果に表れている、美術系活動を鑑賞したいという40%近くの要望と、美術系活動が活発との回答が5%にも満たない結果のギャップはどこにあるのかを考えてみました。今年8月に柏市教育委員会が主催して市民ギャラリーで開催した「柏市政施行70周年記念柏市所蔵作品公開展」は、入場者数が多く柏市民の関心の多さを示していました。柏市民は、レベルの高い造形美術の鑑賞を望んでいることを如実に示していると感じます。アンケートにあった「美術系活動については活発との回答が5%にも満たない」、すなわち美術活動が不活発とは、市民のニーズに叶ったレベルの高い造形美術の鑑賞ができる環境・設備すなわち本格的な柏市立美術館がない、柏市立美術館が欲しいという声なき声を示していると考えます。 柏市に市立美術館が欲しいという要望は、従前からありました。平成17(2005)年頃には砂川工芸美術館存続の署名活動がなされたこともありましたが、しかし、平成19(2007)年にアスベスト汚染のために砂川工芸美術館は閉館せざるを得なくなりました。その後は、柏市文化振興審議会の席で、柏市立美術館の必要性についての発言がなされてきました。しかし、いまだ機が熟せず、実現に至っていません。柏市にアートの拠点・レベルの高い作品群を鑑賞できる市立美術館が欲しいという強い要望が市民の根底に流れています。 4.2 柏市の発展に寄与する文化施設の充実 柏市は平成20(2008)年に「中核市」に成長しました。柏市は、商業都市(卸・小売業41%)を基盤にして発展しており、東大、千葉大、国立がんセンター、科学警察研究所など高度研究・医療施設が柏の葉に集まり研究学園・先端医療都市の面が加わりました。研究成果の遡及による新産業創出と発展が期待されます。これら商業産業発展に加えて、さらに美術館の新設など文化施設を充実することで首都圏の文化・芸術都市に昇華・発展させて潤いのある中核市に活性化するのが柏市の第六次総合計画と期待しています。第六次総合計画の「生涯学習・文化」には市立美術館の新設計画の視点を含めたいと要望します。市立美術館としては、東葛地域の特徴を反映した地域に根差した美術館が求められます。文化施設の充実、柏に住みたいと考える人々を引き付ける大きなインパクトになると考えます。千葉県外を含めて、広域からの集客が見込める魅力ある美術館を創り、地域振興に寄与することは、美術館新設までの周到な事前準備をすることで可能になると考えます。 4.3 レベルの高い柏市所蔵美術品の充実 柏市には、砂川コレクションの芹沢鮭介・棟方志功作品など数百点が寄贈され、保有されています。しかし、砂川工芸美術館の閉館により常設展示ができなくなり、十分に市民に公開されているとは言えません。また、柏市所蔵作品として、砂川コレクションだけで十分とは考えられません。東葛地域の実力のある芸術家が逝去して、その作品群と関連美術資料が散逸の危機に瀕している様相がみられます。また高齢化して作品群の維持管理の場所に困っている著名作家の例も聞いています。柏市内にはレベルの高い個人的なコレクションがあり、柏市に市立美術館があれば寄託や寄贈も可能との例を見聞きしています。柏市立美術館の設置に先駆けて、柏市における美術品の受入れ態勢を充実することで、レベルの高い美術品を寄贈と寄託で充実することが可能となります。柏市立美術館の開館に先行した収集が可能となります。 4.4 柏市立美術館の運営と地域振興効果 柏市が美術館を効果的に運営するには、相応の知識の集積を必要とします。柏市は首都圏にある利点から、芸術大学系の名誉教授など高度な美術知識のある指導者の助言を仰ぐことが容易です。美術担当の学芸員への指導をお願いすることも可能です。美術館運営のノウハウを取得するとともに、美術館利用者の要望を把握して東葛地域の特性に合った柏市立美術館として、東葛地域にゆかりのある力量の優れた作家作品による常設展に加えて良質で魅力ある企画展を開催することで、千葉県外を含めた広域からの集客が見込める魅力ある美術館に発展させることができます。美術館は、芸術を通じた街づくり、地域文化振興、地域おこしなどといった地域づくりに有益です。柏市立美術館をアートの拠点として、柏駅との間に芸術家の工房・アトリエ、美術教室、画材店などを誘導・集約してアートの街づくりをするならば、柏市の集客効果はさらに増すと考えます。柏市立美術館を開設することで、美術館の持つ多大で多様な効果を柏市に還元させることができます。 5 第六次総合計画(案)の記述の充実について 第六次総合計画(案) P43「○施策の現状と課題ー3」「○施策の方向性ー3文化・芸術の振興を図る」においては、市民の望むレベルの高い芸術文化を享受したいという欲求を反映していただきたいと思います。 「● 令和元年度市民意識調査によれば、「本市の芸術文化が盛んである」と回答した市民は3人に1人はいるものの、より気軽に芸術文化に触れられる機会が求められています。」とある部分は、「● 令和元年度市民意識調査によれば、「本市の芸術文化が盛んである」と回答した市民は3人に1人はいるものの、より気軽にレベルの高い芸術文化に触れられる機会が求められています。」としていただきたいと思います。 「● 本市の美術品を活用した、アートに触れる機会の創出や交流の場が求められています」とある部分は、「● 本市の所蔵する美術品を充実し、市民に公開・活用して、レベルの高いアートに接する事の出来る柏市立美術館の設立が求められています」と一歩踏み込んで頂きたいと願います。以上	

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
40	都市整備	46	～(人と人をつづくをつなぐ～街のために。 2. 柏市居住支援協議会を創ること。 現状: 住宅確保要配慮者が安心して住める住宅(賃貸住宅)が不足し他市へ異動している。必要な方を支援する機関がない。 そのような方が相談できる場所が分かっていない。相談できず1人で抱え扶助をうけるしかない状態におかれている。 相談ができて、相談後の支援が途切れ孤独になっています(再犯や障害の悪化)。その現状を市役所は把握していないようです。 解決策:(各課が協働連携し)居住支援協議会を創設し、市で難しいところは市民団体や機関に委託するべきである。 課題:どの団体が居住支援を実施できてるかを見極める必要があります(貧困ビジネスにならぬようにも)。 メリット:住宅確保要配慮者である方々も支援があればその人の経験・力・強みを活かし就労できます。→扶助費を減らし、税収増加が見込めます。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
41	都市整備	46	第六次総合計画(案)に掲げられた将来の姿と基本的な目標を実現する有効な施策として提案したいのは、柏駅前にこれからの柏のシンボルとなりえる複合文化施設を実現することです。図書館・博物館の機能融合を核に、インフォメーション・センター、まちづくり、子育て支援等の機能を付加した複合施設を想定します。地域を知り、自分を見つめ直す「地元発見、自分探求」できる施設として、総合計画案の将来の姿に掲げた「多様な価値や人々がつながり、新たな価値の創造に挑戦」することを促す拠点と位置付けます。 こうした複合文化施設は、第六次総合計画(案)で提示された重点テーマ、 重点テーマ1 全世代に向けた学び・健康・社会参加 ◆誰もが学び続けられることで、人が育つまちを目指します。 ◆みんなの居場所になれるまちを目指します。 重点テーマ2 エリアごとの特徴を生かした地域経済・産業の振興 ◆人々を惹き付けるコアとなるまちを目指します。 の実現に寄与します。 総合計画において、柏駅前の複合文化施設について、その有効性を検証し、構想・計画を策定することと位置付けます。 駅前複合文化施設の構想・計画は、具体の施策体系のなかの「子育て・子育て」「生涯学習・文化」「都市整備」「地域産業」にまたがり、施策横断型の取り組みとなります。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
42	都市整備	46	○「施策：都市整備」に関して「施策の方向性―2 多くの人が行き交う活力あふれる魅力あるまちづくり」において、柏駅東口未来ビジョン(2023年5月)に掲げられた「人を惹きつける魅力」を実現するために、娯楽・文化・交流機能等とともに、駅前に圧倒的に欠けている子育て機能の充実を図るために、複合文化施設の構想・計画を検討し、人を惹きつける魅力のある駅前を創造することを述べます。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
43	道路・交通	49	・P49 最後から2行目「歩行者空間のバリアフリー化」について、バリアフリーを、歩行者や自転車などにとどまらない、様々な人の安全で快適な移動のための「ユニバーサルデザイン」を掲げてくださるようお願いします。	ご意見を踏まえ、「ユニバーサルデザイン」の表現を加えます。
44	地域産業	52	○「施策：地域産業」に関して「施策の方向性―3 観光振興と魅力発信を推進する」について、観光情報発信機能の見直しと強化に寄与し、まちの魅力発信の充実させる機能を駅前複合文化施設に備え、柏市内外の人にとって柏の魅力を知るゲートウェイとなる場づくりの構想・計画が有効であることを示します。 このように柏駅前の複合文化施設の実現に向け、柏市第6次総合計画において、その有効性を検証し、構想・計画を検討すると位置づけることを強く望みます。従来のハコモノ整備とは異なる、ハード先行の議論ではなく、準備に向けた活動を先行させるソフト主導型の取り組みが求められます。市民はサービスを享受する客体ではなく、自発的に施策の実現に貢献する存在として、市民協働・参画の取り組みとします。	総合計画においては具体の事業については記載せず、取り組みの方向性について記載することとしております。 部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。 観光情報発信機能の見直しについては、柏市観光基本計画に沿って、適切に対応してまいります。
45	地域産業	52	・P52 12行目 就労について、若者、女性、高齢者に「等」がついているので、と考えられていると思いますが、障害者も加えて下さるようお願いします。障害者もいろいろな壁があり、ここに加えていただくのに、国や県の施策としても遜色ないとおもいます。数が少なくとも、大きな課題となっています。	一部を例示し、その他全てを「等」という表現で包含しております。
46	生活の安全	64	P64 3行目 交通事故のないまちづくり 高齢者と子どもの中に、「障害者」も入れてくださいませんか?! 障害者も、交通事故の身の危険にさらされております。どうか、文言として、いれてくださるよう、お願いします。	「高齢者と子どもをはじめ、歩行時や～」という表現で、一部を例示するとともに、その他全てを包含しております。
47	自然との共生	65	【1つ目】施策 自然との共生(P.65)において「市民や関係機関と協働」に、NPO等の”地域コミュニティ”の活力を取り入れるため、「地域コミュニティの活力を効果的に取り入れる環境づくりを図りつつ」という文言を取り入れてほしいです。	地域コミュニティは主に町会等を表しているため、他の箇所と表現を合わせて、「市民やNPO、関係機関と協働」と変更します。

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
48	自然との共生	65	「総合計画」は最上位の基本計画という性格上、抽象的なものであり、総合計画に描いたコンセプトを具体的な各部門の施策に落とし込んでいかなくては意味がありません。また、具体策への落とし込みに当たっては、まず、典型的な施策を選んで、パイロットプロジェクトとして先行させると、市民への訴求効果は大きく、波及効果も期待できますので、以下、「自然との共生」施策について、意見を申し述べます。 周知のように、30by30(サーティ・バイ・サーティ)とは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。そのために、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られていると国が認定する区域が自然共生サイトです。柏市内でも2023年、「下田の杜」が初めて認定されました。申請者はこれまでのところ民間がほとんどですが、地方自治体から申請された認定サイトもいくつかあります。柏市北部に位置する「こんぶくろ池自然博物公園」は柏市が所管する公園ですが、手賀沼の自然水源である「こんぶくろ池」とその周辺の森林、そこに生息・生育する多様性豊かな動植物などが、市街地に近接して残る貴重な自然環境として、自他ともに認知されています。この「こんぶくろ池自然博物公園」の所有者である柏市と、市から委託を受けて管理するNPOとが協力して自然共生サイトに申請し、認定を受けることは、「柏市新総合計画(案)」の「自然との共生」施策の具体的な典型施策となり得、市民に強く訴求するとともに、大きな波及効果も期待できます。その一方、大きなコストも要しないと思いますので、是非進めていただきたいと思います。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。
49	地球温暖化対策	67	太陽光発電設備を積極的に公共施設に取り入れて頂きたいです。 気候変動への具体的な対応として公共施設に設置することで、その効果と実績が市民に伝わり易いと思います。 特に小中学校の屋上への設置は教育上でも効果的と考えます。 又、災害時には学校は避難所になると思います。その時電気が確保されていることは大変心強いと思います。 ご検討よろしくお願い申し上げます。	部門計画等の策定や関連事業を進める際には、いただいたご意見を踏まえて取り組んでまいります。

4 その他

No.	項目	該当頁	意見	回答(案)
50	その他	2	○策定の背景について、人口動態・財政状況・公共施設の整備状況が記載されていますが、施策の体系で示された項目についての現状のデータも掲載する必要があると感じます。それらのデータから見える課題に対応する形で本計画を策定する流れとすることはいかがでしょうか。	「施策体系」についてはデータの掲載は行いませんが、今後計画書をまとめていく中で、デザインやレイアウトを工夫することで、読みやすく、わかりやすい計画書となるようにします。
51	その他	その他	○掲載されたグラフや図表に統一感があるとよいと感じました。	今後計画書をまとめていく中で、デザインやレイアウトを工夫することで、読みやすく、わかりやすい計画書となるようにします。
52	その他	16	○16～19頁のエクセルで作られたと思われる表は、バックのマス目は不要です。そこで、エクセル上で背面を「白」に設定することで、バックのマス目が消すことが可能です。	今後計画書をまとめていく中で、デザインやレイアウトを工夫することで、読みやすく、わかりやすい計画書となるようにします。
53	その他	2	第1章はじめに 1.第五次計画の評価 ・「はじめに」において人口動態・財政・公共施設等のデータ推計がなされていますが、第五次計画の進捗評価を簡潔に記載すべきと考えます。 現計画・経営戦略方針は素晴らしい記載ですが、具体的な事業が少なく、意識面でも、『市職員は「社会課題に敏感」「先進性」「人権意識」』としていますが、直近の「議員パワハラ条例」市職員アンケートでは「沈黙が金」「見て見ぬふり」という回答が多く、社会意識でもヘイトの進行など真逆な意識状況です。新規事業も少なく、流山市とのイメージ格差が大きくなり「停滞した10年」では？ 太田市長が出馬の動機とした「妊婦たらいまわし事案」「介護離職増」等、安心安全制度に綻びも具体化しています。10年間の評価を意識、事業、安心づくりの進捗と課題を総括し記載すべきです。	第五次総合計画の計画は進行中(令和6年度末まで)であることから、総括を行う時期にございますが、第五次総合計画の進捗評価を踏まえ、第六次総合計画では、重点テーマに関して、具体的な取り組みの進捗管理を進める予定(P12)です。
54	その他	8	2. 計画の位置づけと第2章基本構想 -1総合計画は自治法に基づく柏市の最上位の計画であり部門計画の指針となるものです。 基本構想の『社会共通の課題解決へ、柏が、日本を、世界をリードしていくまちでありたい。』を実現していくためには、「SDGS報告2024＝停滞」、日本に対する直近国連勧告「教育・社会的入院2022年」(内閣府厚労省所管)、「ビジネスと人権」(外務省所管)、「県多様性条例」、「介護離職増等」「安心安全」を本計画で施策化するのが発信です。SDGS目標に貢献し地域で後退させないために。 現計画は素晴らしい表現とは裏腹に具体先進施策がなく、柏市各部門計画の天井となり、部門施策先進の天井となっているのでは？ 繰り返さないよう具体施策を求めます。	P12の第3章1(2)進捗管理について、に記載しましたとおり、本計画はあくまで各部門の方向性を示すものであり、重点テーマに係る具体的な取り組み内容については、毎年度の「実行計画」に位置付け、進捗管理していきます。
55	その他	その他	最後に進め方と評価・進捗管理 Nothing About us without us. 当事者主体少なくとも当事者参画の策定が条約の水準です。以上	本計画の策定に際しては、こども向けアンケートをはじめ、学生向けのワカモノワークショップ及び市民ワークショップ、パブリックコメントを実施してきました。
56	その他	その他	全体的に施策の方向性がふわっとしすぎててそれを見てやる気があるように見えない。挑戦と掲げてるのに冒頭のところと違う。全体的に大人視点からのが多く子供視点のがないように見えるがそれでいいのだろうかと見ていて思う。 柏市に住んでて良かったなと思うところが1つもなかった。	P12の第3章1(2)進捗管理について、に記載しましたとおり、本計画はあくまで各部門の方向性を示しており、本計画の策定に際しては、こども向けアンケートをはじめ、学生向けのワカモノワークショップ及び市民ワークショップ等を実施してきました。
57	その他	その他	この先、実施することについては書かれていますが、どのように取り組んでいくのか、その視点もあると、よりよい計画になると思います。	「計画の推進にあたって」として、経営資源の活用を踏まえた政策推進の考え方を掲載することとします。